時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

第三千二百七十六號
明治廿五年二月廿七日　土曜日
舊曆壬辰正月廿九日　(己、丑)
日出午前六時十六分　日入午後五時三十三分
月出午前五時五十四分　月入午後四時二十二分
滿潮午前四時三十九分　午後五時六分
(西曆一千八百九十二年)

木曾川以西ノ看客諸君ニ謹告ス

昨年震災ノ爲メ東海鐵道名古屋大垣間不通トナリ新報遞送ノ不便不尠其後名古屋木曾川間開通致候得共尙木曾川大垣間ノ道路非常ニ困難ニシテ大風雨又ハ降雪抔ノ節ハ往々大垣ノ發車時間ニ後レ配達ノ時間一定ナラズ看客ノ御迷惑此上モナキコニ存シ候尤モ此事タル決シテ本社又ハ賣捌人ノ不注意ニ出デタル儀ニハ之レ無ク前陳ノ事情ニヨリテ無止次第ニ候間事情御賢察ノ程奉希上候汽車全通ノ期モ最早遠カラザル內トノ事ニ候ヘバ愈全通ノ上ハ一定ノ時間ヲ以テ迅速ニ配達可申候間不相變御愛讀ノ程懇願仕候先ハ右御斷マデ如斯ニ御座候敬具

東京市京橋區南鍋町二丁目
時事新報社賣捌掛

時事新報定價

時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價遞送料廣告料は左の如し

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月曜休刊

〔○時事新報社ヨリ直接ニ遞送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢の遞送料ヲ申受ク〕

時事新報廣告料(前金)

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるもの寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

社會の耳目は甚だ聰明なり

高尙なる學者識者の眼より見れば今の社會は衆愚の府にして一人の事理を解するものなく盲目千人又千人の譬も道理なきに非ざれども己れも亦その衆愚中の一人として扨て世の中を見渡せば一般の耳目は甚だ聰明にして恐る可きもの少なからざるを發見す可し蓋し今日の社會は人智の進步に連れて人々の耳目を聰明ならしむるの機關次第に發達し即ち郵便の如き電信の如き社會百般の出來事を神速に報道し如何に些細の事柄にても之を一般の社會に傳へて漏すことなく殊に新聞紙の如きは其事實を文字に記して一般の耳目に觸れしめたる其上に之を永久に保存するの便利もあることなれば今の社會の耳目は啻に聰明なるのみならずして永く記臆するの力をも具ふるものと云ふ可し(英國倫敦の書籍館にては世界の各國にて發行したる古今の新聞紙を丁寧に保存し置き參觀人の縱覽に供する例にして曾て或る日本人が取調の事ありて我國にて發刊したる新聞紙の部を一覽したるに明治十一二年の頃一時東京にて發兌したる東京タイムス新聞を一號も漏さずに備へありしと云ふ現に我國の書籍館にても各種の新聞紙を保存するの法あり又銘々の家にても日々の新聞紙を綴込みて保存するもの多し一度び新聞紙に記載されたる一言一句は永く後世に傳はるものと知る可し)左れば今の社會に處するものは一言一行の微と雖も深く注意して擧動を謹しむこと大切なる中にも政治上の運動進退の如く社會の表面に現はれて忽ち一般の耳目に觸るゝものは殊に注意す可きことにして若しも其注意を欠くときは成功覺束なきのみならず或は旨く一時を瞞着するも何時しか馬脚を見露はされて意外の不覺を取ることある可し古來東洋の流義にては所謂豪傑の風を珍重して大功は細瑾を顧みずと云ひ棺を蓋ふて論定まると云ひ平生の擧動には大抵の欠典あるも之を問はざるの風なれども畢竟未開の時代、一般の耳目聰明ならざるが爲めにして今日の社會には通用す可らず例へば支那の古代に於ける彼の湯武の放伐の如き歷史に記す所にては桀紂は天地に容れざる大罪人にして湯武の處置は一點の非難もなきが如くに見ゆれども兎に角に斯る大革命を行ひたる其間には實際に多少の無理は免れざりしことならん又我國の封建時代に往々諸藩の中に行はれたる御家の騷動に就ても世間に傳ふる所にては某は忠臣にして某は奸物なりなど其曲直甚だ明白なるが如くなれども實際の內情を探ぐれば世傳に反對の事實も少なからずと云ふ何れも社會の耳目發達せず內部の事情世に明ならざるが爲めにして斯る時代に於ては平生の擧動は兎も角も唯最後に勝を制したるものは世間にても之を認めて豪傑なりと持囃したることなれども今の社會は大に其趣を異にして一般の耳目甚だ聰明なるが故に政治家の一擧一動は些細の事にても忽ち世人の視聽に入るのみならず政治家として世に立つ者は其主義意見の如何に由り味方もあれば又反對もあるの習ひにして其反對の者共は頻りに他の擧動に注目して苟も欠點の見る可きものあれば忽ち之に乘じて攻擊を逞ふするか或は之を胸中に貯置き他日の機會に攻擊の材料と爲すものあるが故に本人に於ては寸間も油斷のならざる時節にして現に西洋の文明國に於ては近時有名の政治家にして內輪の失行の爲めに世間の攻擊する所と爲りて全く名譽を失ひ政治社會の外に退けられたるの例なきに非ず以て覆轍の鑑と爲すに足る可し我國の政治社會を見るに時代の進步にも拘はらず在朝在野の政治家共に兎角その擧動を謹まざるの弊ありて私行上の不取締なるは申すまでもなく政治上の進退に至りても感服す可らざるもの多きが如し例へば人と事を共にして堅く約束を結びながら半途にして遽に志を飜し一切の責を他に歸して己れは全く預り知らざるもの〻如くに裝ひ又は他人の事を爲すに當り陽には贊成するが如くにして陰には種々の手段を運らし其事を妨害して竊に得々たるが如き我輩の往々聞見したる事實にして或は當人の心に於ては之を以て政治の常道と心得るやも知る可らずと雖も畢竟誤解の甚しきものなり政治社會には權變の手段も時に免る可らずと雖も其手段は萬、止むを得ざるの場合に於て始めて之を許す可きのみ常に陰險鄙劣の手段を事として他を妨げ獨り自から利せんとするは政治家の德義を破るものにして社會の擯斥を免れざる可し蓋し今の政治家流は多くは封建時代に生を享けたるものにして平生の擧動に東洋の臭氣を免れず自から古流の豪傑を氣取りて最後の勝を期することならんと雖も社會は既に封建の時代に非ず一般の耳目甚だ聰明にして且記臆の力にも乏しからざれば若しも政治家たるものが曖昧の間に擧動して一時を瞞着したりなど心得ることもあらば大なる間違ひにして思ひも寄らぬ時に至りて意外の不覺を取ることある可し其結果は政治上の德義を破るのみならず遂には一身の不利に歸することなれば今の政治家たるものは常に社會の耳目の甚だ聰明にして恐る可きものたるを記臆す可きなり

官報

○宮內省達乙第一號
北海道廳府縣並ニ華族
明治二十二年四月當省第四號達ヲ廢ス
明治二十五年二月二十六日　宮內大臣子爵土方久元

○宮內省達乙第二號
華族
華族世襲財產法ニ據リ土地ヲ以テ世襲財產ト爲サントスルモノハ財產目錄ニ其土地臺帳謄本ヲ付添スベシ
明治二十五年二月二十六日　宮內大臣子爵土方久元

○內務省告示第十四號
一新板宇都宮手冢屋情死覿尋一ットせぶし　一冊
栃木縣河內郡宇都宮大字川向町八十三番地　小嶋重義發行
右出版物ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルヲ以テ其發賣頒布ヲ禁ス
明治二十五年二月二十六日　內務大臣子爵品川彌二郎

○遞信省告示第四十四號
來三月一日ヨリ佐渡國羽茂郡西三川郵便局ヲ同國同郡小布勢村字田切須ニ移轉シ小布勢郵便局ト改稱ス
明治二十五年二月二十六日　遞信大臣伯爵後藤象二郎

雜報

○米國通信(寶府一月二十五日發)　八十一生

米智交涉事件　今回の交涉事件の起因は米國軍艦ボルチモール號の水兵がヴァルパライソ港に於て同港民と一場の爭鬪したるが始めにして事の次第は既に讀者の熟知する所なるべし而して米國政府は加害者の處刑及被害水兵の爲めに償金を要求したるも智利政府は其裁判に時を移し又被害者に對し責任あるが如き調子ありて小國の處置としては寧ろ大膽なりと評すべきなれども昨年米政府のニューオルリヤン事件(對以太利)に於ける所置と同一にして敢て智利を非難すべきにあらざるなり昨年智利國內亂のときに於ける米國政府の所置は同國民の一般に喜ばざるところなるべく爾後諸種の事情は益々其感情を害するの傾向を生じ來り、事小なりと雖ども今日の有樣にては外交上容易ならざる狀況を出現し來れるもの〻如く風說百出明日にも宣戰の公布あるが如き觀あらしめデモクラット黨は米政府の所置を非難し大人として發育しつゝある小兒を憐
恤すべきに却て無慈悲にも之れ
自由の本義にあらず歐洲强國に
振を內亂の後を享けたる小國に
今後米政府は如何なる方針を
も兎に角兩國外交上の一危機な
狀なり

米國政海の景況　今年十一月は
てレパブリカン、デモクラット
候補者の指名等の掛引に追々
樣にてはレパブリカン黨にあ
疑もなく現任外務卿ブレイン氏
辭するときは第二候補者たる
あるべし而して玆に一の奇なる
にブレイン氏大統領たらむには
閣に入り外務卿の地位を占む
べき事柄なれども米國歷史に
通の人情より推すときは奇態
補者は有名のマッキンレー氏
シャーマン氏等にして候補者
人氣は寧ろ靜謐にして候補者
反してデモクラット黨にあり
はクリーウランド氏と候補を
ヴェニャ州知事パチソン氏の
を要するにレパブリカン黨の
於ては多しと雖ども指名され
すべき意氣込あるもデモクラ
各其部下を將ひて同士擊の有
兩黨の現況なれ共政海の波瀾
結果は來る七月セント　ポー
黨の指名會及び來十一月を待

昨年間米國に於ける鐵道布設
治二十四年)中に國內に布設
細なる統計を得る與はざるも
の線路を除き普通の鐵道建設
最近六七年間の統計に比して
蓋し千八百八十七年(明治二十
哩を布設し其後每年五六千哩
れば全國十六萬哩を有し國中
地方は大低竣功し今後の起工
日に望を屬するが如き線路及
年中商業の不活潑金融の澁滯
は果して如何なるべきかは未
るも市場の有樣寧ろ活氣を加
より下るが如きことはなかる
る鑛貨問題の決着如何により
る可からず

大平洋海底電線　米國より布
海底電線は近年世人の注目す
蓄し遠きにあらざる可し今日迄
時は實施せられ得べきは勿論
して日米布の三海岸取附の工
を要するとならむ米國軍艦ア
部の海底測量の結果によるに
ノル、港へは達せしむる能は
港の近傍に海潮激流する淺瀨
哩間は深さ百尋に充たざる岩
にして急に一千〇六十一尋の
千七百尋となるが故に斯る急